



『であい、ふれあい、そして未来へ』～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～

<Charcoal grill Challenge Part3> ←1月18日(月)に2回目の炭の取り出し

大寒(1/20)まじかではありましたが、穏やかな日となりました。5・6年生の子どもたちが、2限目に12月17日(木)窯入れをした竹の原木を取り出しました。今回は竹炭ということで、浅野CS会長さん、川合前校長先生にお世話になって取出しの準備等していただきました。ありがとうございました。これで、前回の木炭、今回の竹炭で製品が揃い商品化において梱包準備やラベル・ポスター作りの体験学習に入っていきます。

また、3限目に今年最後の木炭を焼くために、原木(樫)の搬入もおこないました。



川合前校長先生のお話



今回の成果



竹炭の取出し



原木の搬入



原木の搬入



<Charcoal grill Challenge Part4> ←1月25日(月)に梱包・ポスター作成作業

5・6年生の子どもたちが、林まち協会会長さん・明石CS推進委員さんにもお手伝いいただいて、先週焼きあがった竹炭と年末の木炭を使って梱包を行いました。ありがとうございました。子どもたちは、梱包(炭入れ等)を担当するグループと箱の中に入れるメッセージ(箱に貼るラベル等)を作るグループに分かれて活動しました。箱の中には、炭とともに消臭・脱臭用の竹炭を置く容器や木炭の取り扱い説明書等を入れる予定をしています。子どもたちが手掛けた物が商品化の最終段階となり、自分たちが作った品物(800円/6kg)がいよいよ商品となります。ご家庭でご入用の際は、学校まで連絡してください。但し、数量限定ですのでなくなり次第、販売終了となりますのでご了承ください。



<国体に協力！！> ←令和3年9月25日～10月25日

令和3年度9月から10月にかけて、三重県で第76回国民体育大会「とこわか国体」が開催される予定をしています。亀山市では、正式競技としてウエイトリフティング（西野公園体育館）と軟式野球（西野公園野球場）が開催されます。全国の選手を迎えるにあたって、6年生の子どもたちが長野県の選手を迎えるためにのぼり旗を2種類作成しました。大会当日には西野公園に掲示され選手を迎えます。



三重とこわか大会
第21回全国障害者スポーツ大会 ときめいて人 かがやいて未来 2021



三重とこわか国体
第76回国民体育大会 ときめいて人 かがやいて未来 2021



<健康管理の再確認を！！>



毎日「新型コロナウイルス感染症」の報道がされています。学校も、3学期が始まって3週間が経とうとしていますが、三密に留意しながら授業を行っています。お家では、毎朝の健康観察をお願いしています。今後も予防に努めながら、教育活動を続けてまいりますのでご理解・ご協力をお願いします。

子どもたちは、色々な制約がある中でも授業や活動において一生懸命に取り組んでいる姿が見受けられます。しかし、時としてマスクをすることを忘れていたりすることもあります。報道等でも言われていますが、誰しも感染する可能性があるため、基本的な予防に努める必要があります。学校生活において学校でも声掛けをしていますが、ご家庭においてもお子さんに声掛けをお願いします。



《白川小コラム》 → → → せつぶん りっしゅん 節分と立春って??

文字の通り、春が立つと書くので、旧暦では春が始まる日になっています。立春は、旧暦で使用されていた二十四節気の一つで一年が始まる重要な日でした。二十四節気は一年を4等分(冬至、夏至、春分、秋分)してさらにその中で4等分(立春、立夏、立秋、立冬)をしたものです。立春の時期に吹く最初の強い南寄りの風のことを、「春一番」と呼びます。

2021年の立春は、2月3日(水)となっています。立春の前日は節分で、立春は例年2月4日頃になります。明確な日にちではないのは、年によって日にちがずれてしまうことがあるからです。

また、立春の前日が節分になります。節分と立春は非常に深い関係を示しています。節分は季節の節目となる日のことです。日本には、春夏秋冬の季節がありますが、その季節の節目がそれぞれありました。節分は、2月3日3のイメージが強いですが、実は夏の節目になる日も節分、秋も節目も節分・・・という一年で4回の節分があります。しかし、夏、秋、冬の節分は、時代と共に消滅し、江戸時代以降は立春の前日を節分するようになり、春の節分だけが残りました。なぜなら、冬から春に変わる時を一年の境目としたため、節分には現在の大晦日と同じ意味があったとされています。

つまり、現在の12月31日の大晦日の日を旧暦では節分とし、現在の1月1日の正月を一年のはじまりだとされている立春となっていたということです。簡単に言えば、大晦日の節分の日の次の日が新年である立春だということになります。

